

## 2016 年度秋季大会実施報告

大会・企画委員会, LOC

### 秋季大会実施報告 (大会・企画委員会)

2016 年度秋季大会は、名古屋市の名古屋国際会議場において、10 月 5 日 (水)～7 日 (金) に開催され、829 名 (会員 667 名, 非会員等 162 名) の参加がありました。プログラム確定後の講演発表数は口頭 246 件 (うち招待講演 3 件)、ポスター 214 件の合計 460 件で、このうち口頭発表 1 件がキャンセルされました。そのほかに、若手学術奨励賞受賞者 3 名による記念講演がありました。

今年度の秋季大会では学会員から特別セッションの提案がなかったこともあり、大会・企画委員会から「2016 年熊本地震および関連する地殻活動」を企画しました。招待

講演3件を含めて39件の口頭発表、40件のポスター発表があり、大変活発な議論がなされました。

昨年度同様、講演申し込み、予稿原稿アップロード、事前参加登録と参加登録料及び投稿料の支払いは、ウェブサイト上で受け付けました。事前参加登録済みかつ年会費納入済みの会員には、予稿集と共に名札と領収書を事前送付し、当日は大会受付を通らずに入場できるようにしました。今年度より、講演予稿集の電子化を行い、事前参加登録して頂いた会員には、予稿集ダウンロードのためのURLと閲覧のためのパスワードをプログラム公開の時期にあわせて連絡しました。

今年度は、大会1日目の午後に、若手学術奨励賞受賞者3名による記念講演を設けました。大会2日目の昼休みには、南海トラフ巨大地震：予測可能性シンポジウムと防災対応WGについての説明会が理事会主催で開催されました。大会3日間ともに4会場同時並行に口頭発表のセッション（若手学術奨励賞記念講演を除く）を行い、大会初日と2日目の夕方、3日目の午前にはポスター発表のコアタイムを設けました。なお、通常的口頭発表の時間は1件あたり15分（講演12分、質疑3分）としました。

今年度も、学生による優れた研究発表を奨励し、研究発表技術の向上を目的とした「学生優秀発表賞」の審査をしました。口頭発表とポスター発表のどちらも対象です。本年度の審査員には理事、代議員、大会・企画委員会、若手学術奨励賞受賞者から27名が選出され、のべ73件の発表を審査しました。選考結果と受賞者については、本ニューズレターNL5-4～6ページに発表されています。

秋季大会の準備、運営面では、名古屋大学の地震学会員からなるLOCの皆様にも全面的にお世話になりました。LOCの皆様の献身的なご尽力により、名古屋大会が円滑に運営されたことに、大会・企画委員会から心よりお礼を申し上げます。大会の経費については、公益財団法人大幸財団の助成を受けています。

さて、来年度の秋季大会はかごしま県民交流センターにおいて、2017年10月25日（水）～27日（金）の日程で開催される予定です。LOCは鹿児島大学にお引き受けいただいています。今年度に引き続き、会員の皆様の積極的な投稿・参加を期待しております。

最後になりましたが、各セッションの座長および学生優秀発表賞の審査員をお引き受けくださった皆様のご協力に感謝申し上げます。

#### LOCからの報告 (LOC)

本大会は名古屋大学の地震学会員がLOCを務めさせて頂きました。名古屋大会が開催される直前には、台風の影響でキャンセル等の影響を心配しました。幸いにも大会中

の3日間は、初日は小雨が降りましたが、2、3日目は好天と暖かさにも恵まれ、参加された方々には名古屋での滞在を楽しんで頂けたことと思います。

本大会の会場は2006年の名古屋大会でも使用した会場でもあり、懐かしく思い出の方も少なく無いかもしれません。前回の名古屋大会で使用したポスター会場は狭かったとの反省から、本大会のポスター会場はイベントホールを使用し、十分な広さのポスター会場を確保しました。それに加えて、特別セッションのポスター展示を3日間連続で掲示し、企業展示もポスター会場で開催できたことで、ポスター会場の環境改善ができました。また、本大会では口頭発表の開始時刻を初日は9:30から、2、3日目は8:30とする新たな時間設定により、口頭発表の件数を増やすことができました。これらの対応は、大会会場の問題でありますので、地域の事情に応じて適切な大会会場を選んでいただければと思います。

本大会からの新しい試みとして、講演予稿集の電子化がありました。LOCは会場での無線LANによる大量ファイルのダウンロードを危惧していましたが、ほとんどの方が事前に予稿集をダウンロードしてあることから、大きな混乱はなく無事に終了することができました。

最後になりますが、多くの方々のご協力の下で無事に本大会を終えることができました。大会にご参加下さった皆様、ご協力下さった方々に深く感謝申し上げます。

#### 一般公開イベント報告 (LOC)

本大会終了後の10月8日（土）に、日本地震学会と名古屋市科学館の主催、科学研究費補助金の助成のもと、名古屋市科学館において、一般公開イベントを開催しました。一般公開イベントは、一般市民を対象とした「一般公開セミナー」と「地震の教室（親子向け・教員向け）」の2部構成で開催されました。

地震の教室では、親子向けと教員向けの2種類の教室を同時に開催し、43名の参加がありました。親子向け教室では、手軽に入手できる材料を用いた手作り地震計の工作を行い、教員向け教室では、地震に関する教材をブース形式で紹介しました。

一般公開セミナーでは、「海洋底から巨大地震に迫る」と題して13:30から開催され、108名の参加がありました。身近な防災・減災の話から、最新の技術を用いた研究成果の話、今後どういったことが起きるか、といった幅広い内容まで含めてわかり易くお話し頂き、各講演のあとには質疑応答も行われ、ご来場頂いた方にはご満足頂けたのではないかと考えております。講演いただいた講師の皆様、ご協力いただいた各方面の皆様にお礼申し上げます。

<講演>

山岡耕春 (名古屋大学教授・日本地震学会会長)

「南海トラフ地震とは何か」

モリ・ジェイムズ・ジロウ (京都大学教授)

「海底を掘って東北地震の謎を探る」

金田義行 (香川大学学長特別補佐)

「海底ケーブルネットワーク (DONET) によるプレート

境界の監視」

大会プログラムの修正 (大会・企画委員会)

○発表のキャンセル

S02-04 光ファイバー網と DAS テクノロジーを使った地震・津波観測の可能性

# 木村恒久 (SFTC)